

第 11 回地域創生・人口減少対策本部会議

日 時：令和 2 年 3 月 24 日（火） 15：40～15：50

場 所：第一特別委員会室

【鈴木副知事】

ただ今から、第 11 回地域創生・人口減少対策本部会議を開催します。
議題について、企画調整部長から説明をお願いします。

【企画調整部長】

資料 1-1 を御覧ください。令和 2 年度から 6 年度までの 5 年間の「ふくしま創生総合戦略」の概要でございます。

前回の本部会議におきまして、次期戦略の素案をお示しし、その後、市町村、有識者会議、県民の皆様の御意見を踏まえて次期戦略（案）をまとめました。

資料の左上、「基本理念」と「基本的な視点」でございますが、「復興・再生」と「地方創生」を両輪で進めるということを基本的な理念としております。

また、基本的な視点として、三つございます。①「ふくしまプライド。」を追求するための、県民一人一人の想いを大切にして挑戦を支える社会を実現していこう、②それぞれの強みを発揮し、相互に連携・共創する社会の実現を図っていこう、③「ふくしまの地」で挑戦する姿を見て自分も挑戦したくなる、人が人を呼び込む“あこがれの連鎖”を生む社会を実現していこうと。こういった基本的な考え方の下、取組を進めてまいりたいと考えております。

右上を御覧ください。令和 22 年に総人口 150 万人程度を目指すと記載しておりますが、中間目標として、5 年後の令和 6 年に 174 万人を目指すこととしたいと考えております。

今回の戦略の特徴といたしましては、ただ今申し上げた中間目標を設定したことのほか、その施策自体が人口減少の抑制としてどのような効果があるのかを矢印で記載したこと、県民の満足度をはかる県民参考指標をモニタリング指標として新たに設定したこと、SDGs、持続可能な開発目標を意識しながら取り組みを推進していこうということでございます。

資料 1-2 を御覧ください。総合戦略の骨格でございます。

基本目標は「ひと」「しごと」「暮らし」「人の流れ」としております。

「基本目標 1 ひと」では、結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境づくりなどを進めていくこととしております。

また、「基本目標 2 しごと」では、魅力的で安定した仕事をつくるということで、重点的な取り組みといたしまして、新たな産業を育てる、しなやかで力強い地域産業を育てる、地域資源を生かした産業を振興する、魅力ある農林水産業を展開するということをしっかりやっております。

「基本目標 3 暮らし」の部分でございますが、これまでのまちづくりの観点だけではなく、暮らし全般に施策を広げたところでございます。

「基本目標4 人の流れ」につきましては、新たな人の流れをつくるということで、福島で輝いている人の魅力を発信する、“あこがれの連鎖”につながるような、そういった施策を取り組んでいこうと考えております。

次に、資料1-3でございます。

成果目標などの記載でございますが、それぞれの基本目標ごとに成果目標を定め、「ひと」の部分につきましては合計特殊出生率2.11を令和22年度に目指すこと、健康寿命についてもしっかりと取り組んでいくとの2つ、「しごと」の部分につきましても5つ、「暮らし」について2つの目標を定めました。

「人の流れ」については、非常にチャレンジングな目標でございますが、令和12年には社会減を止めるということをしつかり宣言したいと思っております。

また、それぞれの成果目標の下に、モニタリング指標という形で、「県内で子育てしたいと思う人の割合」などといった記載をしているところでございます。

そして、資料2でございます。

表紙が非常にインパクトのある資料になっておりますが、通常、役所の文書ですとなかなか見ていただけないということで、今回、県内の高校生に、福島で働く、福島で暮らす、それが楽しい、わくわくするというようなイメージで表紙を考えて欲しいということをお願いをいたしまして、表紙には福島で頑張っている若い女性の姿、裏表紙の方には、福島で働くことを決めた男子学生の姿をイラストで描いていただきました。

新年度から5年間、この戦略に基づいて、自然増・社会増の両面から実効性のあるあらゆる施策を講じてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【鈴木副知事】

今後の取組について、各部局から。まず商工労働部長。

【商工労働部長】

まず「基本目標2 しごと」についてですが、魅力的で安定的な仕事を創出するため、福島イノベーション・コースト構想の推進を始め、成長産業の育成・集積、企業誘致による雇用の創出などに積極的に取り組むことによって、活力ある地域産業を育ててまいります。

それから「基本目標1 ひと」でございます。若者等の定着・還流に向けた県内就職への支援やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業支援等にも、しっかりと取り組んでまいります。

以上です。

【鈴木副知事】

農林水産部長。

【農林水産部長】

資料の1-2、基本目標2のところになりますけれども、農林水産業が魅力的で安定したものにすることが重要であります。

そのため、新規就農者の確保や法人化による安定的雇用の創出、経営支援などにより担い手の確保、育成をしっかりと進めてまいります。

また、スマート農業やGAPの取得推進などにより、魅力ある農林水産業が展開できるよう努めてまいります。

さらに、中山間地域でも農業・農村の多面的機能が維持、発揮されるよう、様々な取り組みを進め、本県の農林水産業の発展につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

【鈴木副知事】

ただ今の説明に関して、何かありますか。

【会計管理者】

今、企画調整部長から説明があった、資料1-1の右上、令和22年度に県総人口150万人程度の維持を目指すということで、人口の目標を共通認識とするというのは非常に重要なことと思います。

その中で、戦略の推進・検証をどういうふうに行っていくのかという視点から、資料2の7ページに、KPIを設定しながらPDCAサイクルによってKPIの達成を目指していくと記載がありますが、PDCAサイクルはどのぐらいのスパンで検証していくことを想定されているのかお聞きしたいと思います。

【企画調整部長】

PDCAサイクルでございますが、基本的には毎年1回ということで考えております。実際の人口の状況につきましては、毎月、現住人口の推移ということで、企画調整部で確認している状況でございます。

以上です。

【鈴木副知事】

他にありますか。

なければ、次期「ふくしま創生総合戦略」は本案をもって決定します。

最後に、知事からお願いします。

【知事】

昨年12月に更新した人口目標の達成に向け、本日、次期「ふくしま創生総合戦略」を決定しました。次期総合戦略に基づき、しっかりと成果を出していく必要があります。

そのために、皆さんと共有したい3つのキーワードがあります。

1つ目は、「想い」です。想いとは県民一人ひとりの想いであります。

本県の復興・再生と地方創生を両輪で進めていくための礎となるもの、それは「人」であり、そうした一人ひとりの「想い」が多様な活動を生み、本県の新たな魅力や可能性につながっていきます。県民おひとりおひとりの「想い」を大切にしながら、施策を展開していきましょう。

2つ目は、「危機意識」です。

人口減少対策については、これまでの施策により、一定の成果を上げている部分もありますが、それ以上に構造的な要因もあり、人口の減少が進んでいます。この厳しい現状を、全ての職員が「危機」として認識し、全ての部局が自分事として捉え、人口減少対策に取り組んでください。

3つ目は、「連携・共創」であります。

「共創」は共に創る、地方創生の「創」です。

次期戦略の理念や目標を多くの方々と共有をして、これまでの連携・共働を更に進化をさせ、知恵と工夫を凝らして、本県の新たな魅力や可能性を見出していく「連携・共創」の取組を進めてください。

以上です。

【鈴木副知事】

以上で、地域創生・人口減少対策本部会議を終了します。